

## 上智大学・学外共同研究が支援する

### アンコール・環境マネジメントシステム（ISO14001）導入プロジェクトについて

1. 背景： アンコール観光ブームに伴う遺跡群と周辺環境の劣化およびその急速な進行懸念。

2. プロジェクト(支援の対象)： アプサラ機構がアンコールの環境保全を目的として ISO14001 を導入するプロジェクト。

アプサラ機構とは：

UNESCO はアンコール遺跡群を世界遺産に登録する条件としてカンボジアに対して遺跡群の保存・修復のほか周辺地域の開発・観光・環境保全を一元的に管理する政府機関の設置を要請。この要請に応じて1995年に設立されたのがアプサラ機構である。

ISO14001とは：

ISO（国際標準化機構、ジュネーブ）によって1996年に発行され、全世界で広く採用されている環境マネジメントシステムの国際規格（グローバルスタンダード）。

アプサラ機構によるISO14001の導入とは、「機構自らが環境方針を設定し、年度毎にアンコール地域の環境整備について具体的な目標を立てる。そしてISO14001規格に基づいて構築された自らの組織運営システムに従ってその達成を図ってゆく」ことである。

3. 支援の主体 上智大学・学外共同研究

メンバー

- ・ 学校法人 上智学院（上智大学アジア人材養成研究センター）
- ・ 財団法人 日本品質保証機構（JQA）
- ・ 株式会社 国際規格研究所（ISRI）
- ・ 株式会社 品質保証総合研究所（JQAI）

支援期間

2003年5月より3年間

主たる支援内容

- ・ 環境マネジメントのためのアプサラ機構人材の育成
- ・ 廃棄物処理、水質改善、森林保全、歴史景観の保持など、環境改善に取り組むカンボジア人専門家の育成。

#### 4. プロジェクトの経過

- |            |   |
|------------|---|
| 2002 年     | ・カンボジア政府首脳に対し、アプサラ機構自らの意思と継続的な努力によりアンコールの環境を保全、改善してゆくための有力手段として ISO14001 を紹介。 |
| 2003 年     | ・アプサラ機構は ISO14001 の導入に意欲を示し、フンセン首相もこれを強く支持。<br>・上記日本の 4 組織がこれを積極支援することを決意。    |
| 2003 年 5 月 | プロジェクトスタート  |

#### その後の活動と支援

ISO14001 のクメール語訳（カンボジア政府）

アプサラ機構内部の活動

- ・環境マネジメントシステム（EMS）事務局を設置
- ・EMS 勉強会の継続開催
- ・アプサラ機構「環境方針」の決定
- ・“アンコール EMS ニュースレター”の月次発行
- ・環境側面調査（アプサラ機構の事業、活動は環境にどのような影響を与えているのかを把握）
- ・環境マネジメントシステムの構築スタート

環境基礎調査（大気、水質、廃棄物に関する基礎データを把握。又、ゴミ処理委託先である HCC 社の監査を実施）

外部の理解と支持を得るための活動

- ・ICC 会議でのプロジェクト発表と進捗の説明（2003 年 7 月、2004 年 2 月及び 2004 年 9 月）

ICC 会議とは：

1993 年に日本政府が主導した「アンコール遺跡政府間会議（カンボジアと 30 カ国以上の政府代表、国際機関、NGO 等の代表が参加）」にて採択の「東京宣言」に基づいて設置された「アンコール遺跡の救済及び開発のための国際調整委員会」のこと。日本及びフランスが共同議長を務め、ユネスコを事務局として 1993 年 12 月以降定期的に開催されているアンコールにとって極めて重要な国際会議。

- ・ 地域社会との EMS に係る懇談会の開催  
僧侶、村の長老、露店主、教諭などにアプサラ機構の環境活動について理解を求め、その協力を得るための活動。
- ・ 簡易版 EMS による小学生向実地トレーニングの実施（遺跡周辺 2 校）
- ・ キックオフセレモニー開催 / 2004 年 2 月  
アプサラ機構スタッフ及び諸関係者合同にて開催。本プロジェクトをアンコール地域全体の環境運動と位置付けるもの。席上、アプサラ機構の環境方針が広く地域にて対しても発表された。

諸主要ジャーナルでの好意的紹介

- ・ ISO の機関誌「ISO Management Systems」の 2004 年 9-10 月号に大きく取り上げられ、全世界に紹介された。
- ・ その他  
2004 年 9 月 26 日 朝日新聞朝刊 / 社説 “アンコール遺跡・国際協力で環境対策を”  
2004 年 10 月 11 日 毎日新聞朝刊 / 25 面 “カンボジア・アンコール遺跡群 / 環境保全計画進む”  
2005 年 1 月 4 日 朝日新聞朝刊 / 私の視点”アンコール遺跡・環境汚染への対策急げ”（石澤良昭）  
2005 年 2 月 23 日 International Herald Tribune 紙 / OPINION “If you visit Angkor ruins, bring home your trash”
- ・ 2005 年 2 月、ISO 機関誌のチーフエディターであるフロスト氏が本プロジェクトを現地に取材、ISO としての関心の高さが示された。
- ・ 2005 年 3 月 25 日 上記現地取材の結果が ISO プレスリリースで全世界に紹介された。

## 5. ゴール

- ・ 2006 年中頃までにアプサラ機構の ISO14001 に基づく環境マネジメントシステムは第三者機関によって審査認証される予定である。
- ・ その後も世界遺産・アンコール遺跡群とその周辺環境はアプサラ機構を中心に継続的に保全、改善されてゆく。